

中学生のための『ひらめき☆ときめきサイエンス』

重要文化財の民家で歴史・建築・生活を体験して
民家を次世代にどうつなぐかを考えよう

国指定重要文化財の民家（略称 重文民家）は、全国に約400件あり、その約60%が個人の住まいとして所有・管理されています。個人所有の重文民家は、暮らしの知恵が詰まった現在に生きる文化財です。
本プログラムは、重文・奥田家住宅（大阪市平野区）をフィールドにした中学生向けの住文化体験学習です。中学生に民家の建物しくみと維持管理の工夫を実際に体験してもらい、所有者の方らにインタビューを行うことで、文化財を維持管理し、次世代につなぐことの意義を知ってもらうことが目的です。あわせて、民家と住まい手を対象とするフィールド研究の面白さを受講生に伝えることを目指しました。

【1】プログラムの概要

- ◆実施日：2022年7月24日（日）
10時30分～17時
- ◆参加者：中学校1～3年 15名
- ◆プログラム
午前：ミニ講義とアイスブレイク
（大阪教育大学天王寺キャンパス）
午後：奥田家住宅へ移動して体験学習



写真1 奥田家住宅主屋

重文・奥田家住宅（大阪市平野区）の主屋（写真1）は17世紀初頭の建築とされています。奥田家は10ヶ村を治めた大庄屋で、主屋と長屋門、納屋、蔵4棟が1969年に重要文化財に指定されました。常にかまどに火を入れるなど、日々の家の維持管理は、いまでも奥田家の家族の手で行われています（写真2）。



写真2 奥田家住宅かまど

【2】ミニ講義とアイスブレイク

まず、重文民家について知ってもらうために、天王寺キャンパスの講義室で、「重文民家を次の世代につなぐ」をテーマにミニ講義を行いました。また、大学生とゲームで交流しました。

【3】民家の建築を学ぶ

奥田家住宅の主屋・土蔵・長屋門・庭を見学し、それぞれにまつわる歴史の解説を聞いて理解を深めました（写真3）。大工道具も一種である指金を使った計測体験、民家の軸組模型の組み立て体験（写真4）などを通じて、木構造のしくみ、建物を強くするしくみを学ぶとともに、それらが奥田家住宅の主屋の中にも見られることを確認しました。

民家の建築を学ぶ



写真3 建築の特色と歴史を学ぶ



写真4 軸組み模型で民家の構造を学ぶ

【4】民家の維持管理を学ぶ

裏庭で集めた柴をかまどにくべ、かまどの煙と煤が木材の腐朽防止に有効であることを学びました（写真5）。また、庭での草むしりや砂紋引き（砂利整備）を体験し（写真6）、民家を保全するために家族が行っている日常管理について理解を深めました。

【5】所有者の方へのインタビューとアイデア発表

体験を通じて、実施代表者、奥田家住宅のご家族3名、実施補助の講師らに、中学生が疑問に思ったことなどをインタビューしました（写真6）。

歴史的住宅を次世代につなぐためのアイデア発表会（写真7）では、参加した中学生から、「地域の若者たちに、絶対にこんな民家に興味がある人がいると思うので、ボランティアやアイデアを出せる機会をもうけて、活性化させる」、「ネット上で募金をしたり、ボランティアを募集して保全を手伝ってもらう」、「YouTubeで、古民家から現代を学ぶみたいなことを発信する」などの意見が出されました。

また、「普段、知ることのない古民家のつくりや、工夫や生活、そして保存・継続の努力を知ることができて、見方が変わりました」「今回、体験したことを通して、何か行動を起こしたいと思いました」などの声が寄せられました。

【謝辞】本活動の実施にあたり、奥田邸保存会、左海晃志（大阪工業技術専門学校専任教員）、植松清志（本学非常勤講師）、五十嵐莉乃・チョゲツ・吉井貴裕（健康安全科学専攻学生）、吉原哲也・美濃育子・山本博子（教育学研究科教育ファシリテーションコース院生）、ホアン・ティ・スアン（日本語日本文化研修留学生）、大阪教育大学研究協力係の皆様にご協力いただきました。
なお、本活動は、2022年度科学研究費（研究成果公開促進費）「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」（課題番号22HT0108）によって実施しました。

所有者の方にインタビューする



写真7 奥田家住宅の所有者の方との意見交換

重文民家の保全についてのアイデア発表会



写真8 重文民家を次世代につなぐためのアイデア発表

民家の維持管理を学ぶ



写真5 かまどの焚き付けを体験



写真6 庭で砂紋引きを体験